

京丹後市発達支援ネットワーク



京丹後市では、すべての子どもが成長し、やがて就労に至るまで、健やかな発達と保護者への支援を切れ目なく行えるよう、保健・福祉・医療・教育・就労の関係機関が連携し、支援体制を構築しています。

その一つとして、発達障害の特性を広く知っていただき、必要な支援が一人ひとりに届くよう、発達支援ネットワーク会議を開催しています。

よく耳にする「発達障害」とは？

得意と不得意の差が大きいため、生活の中で困難さ（つまづき）が生じることを言います。

生まれたときからの、脳の働きが関係しています。親のしつけや過ごし方の問題ではありません。



記憶力がすごい！

興味があることは、
とことん知りたい！

平均的

おしゃべりが苦手



整理整頓ができない

困難さ（つまづき）が大きくなると、「発達障害」と診断されることがあります。

思いあたることは、ありますか？

【乳幼児期】

- ・言葉が遅い 視線が合いにくい
- ・自分なりのこだわりがある かんしゃくが強い
- ・落ち着きがなく、危なっかしくて目が離せない
- ・興味のある範囲が狭く、同じ遊びを繰り返す
- ・予定が変更になるとパニックになる
- ・おもちゃの貸し借りができない



【小学生】

- ・友達の嫌がることを言ってしまう
- ・友達と仲良く遊べない
- ・読み書き、計算が苦手
- ・整理整頓ができず、よく探し物をする
- ・忘れ物が多い
- ・落ち着いて話が聞けない

【中学生 高校生】

- ・一度に複数の指示を受けると、混乱してしまう
- ・あいまいな表現が理解できない
- ・空気が読めない発言をしてしまう
- ・友達とのグループ行動が苦手
- ・身だしなみに気を遣えない



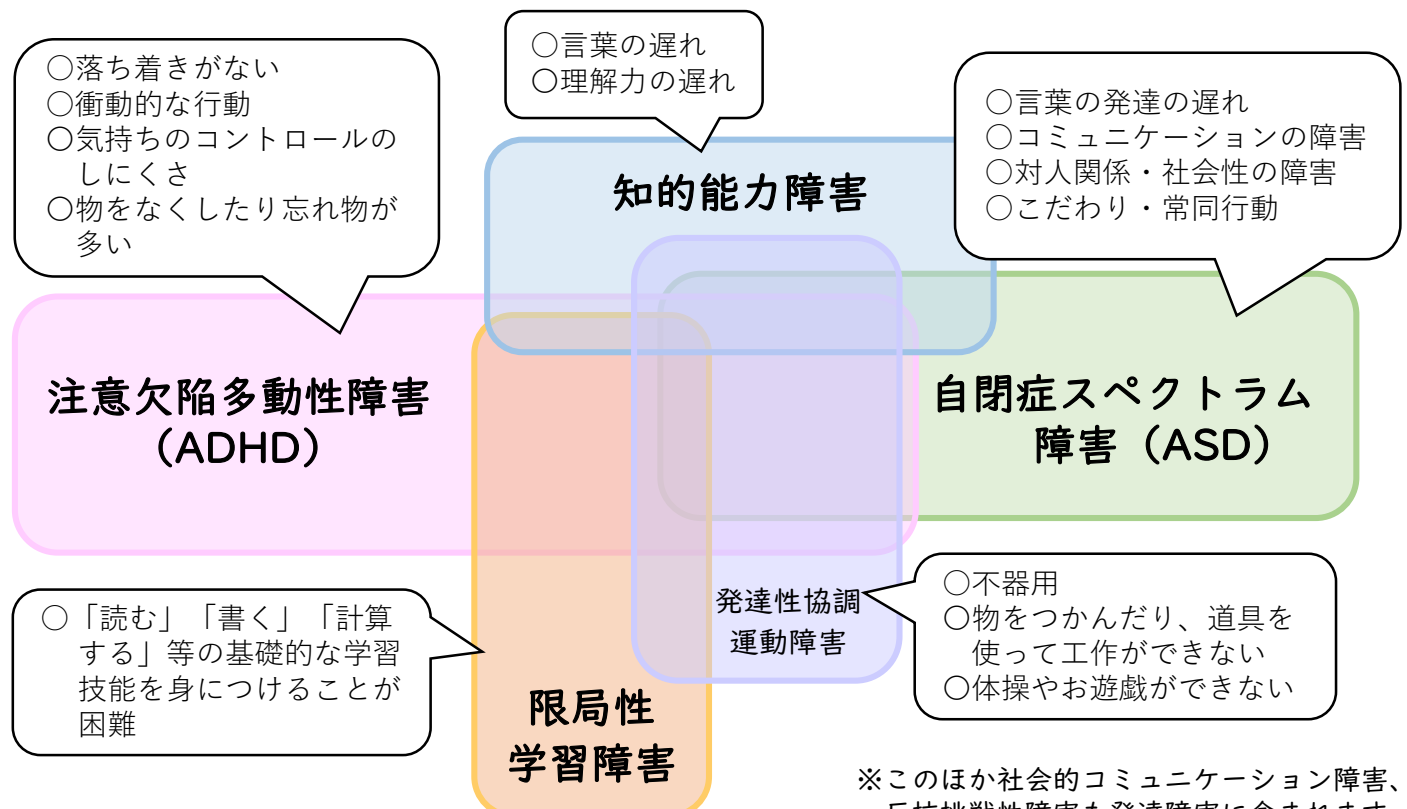
【大学生 就労】

- ・複数の課題や仕事が同時に進められない
- ・仕事のミスが多く、1つの職場が長続きしない
- ・人に合わせると気を遣いすぎて、疲れてしまう
- ・人の気持ちを理解できず、トラブルになる
- ・掃除や料理が段取りよくこなせない

※上記は一例であり、個人差があります

発達障害を理解しましょう

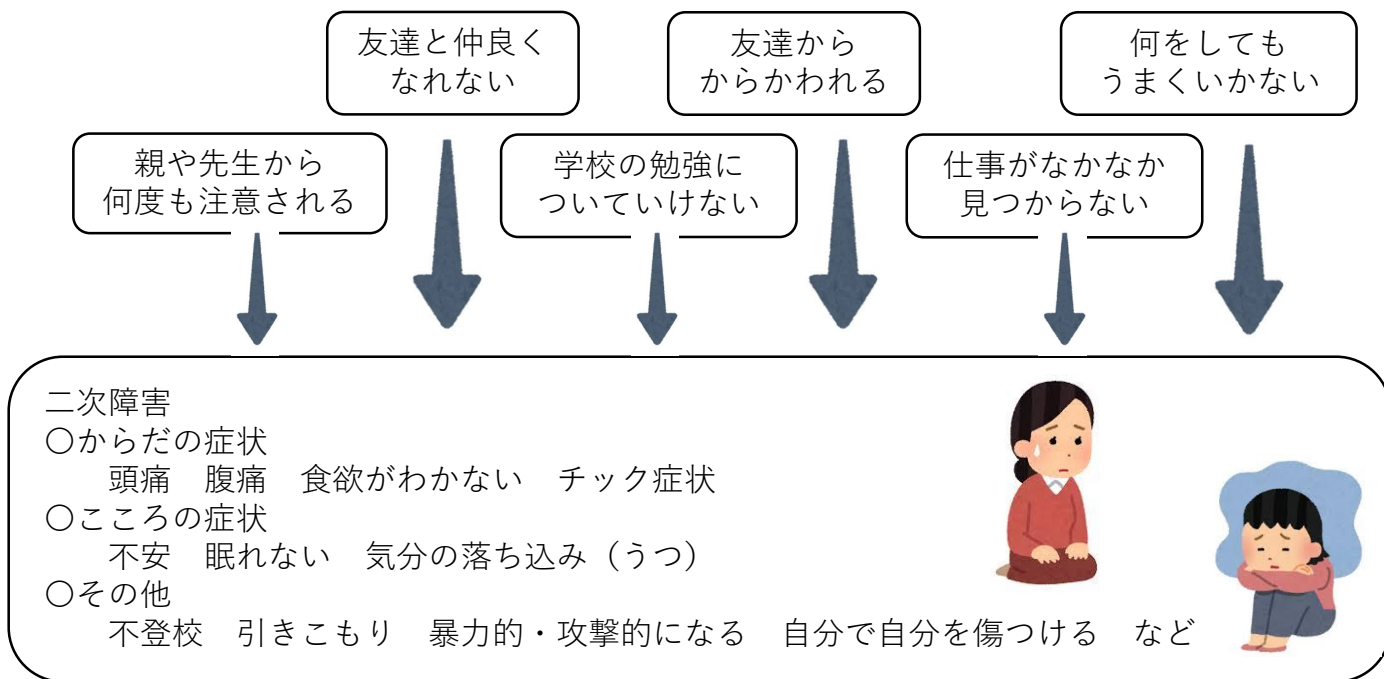
参考：日本小児神経学会 資料
神経発達症（診断分類DSM-5）より一部抜粋



※このほか社会的コミュニケーション障害、反抗挑戦性障害も発達障害に含まれます。

二次的な障害を知っていますか？

生活の中で起こるトラブルやストレスが原因となり、別の障害・症状が現れることがあります。これを「二次障害」と呼びます。



二次的な障害が起こる前に、適切な支援や関わりが大切になります。

『できる！』を増やし、『困った！』にお手伝い

子どもと向き合うときに大切なことは、本人の困難さに気づき、自信につなげる手助けです。

○『自信につながる』手助け

- ・得意なことは「すごい！」とほめよう
- ・苦手なことは「できない」と言える力をつけよう
- ・「できた！」の体験と、「わかる！」の経験を重ねていこう

○『わかりやすい』手助け

- ・日程表や手順など、目で見てわかる工夫をしよう
- ・物の位置を決め、整理整頓をしやすいようにしよう
- ・メモや携帯など、自分の手助けとなる手段を使おう

小中学校

療育施設
(さつき園)

保育所
認定こども園

行政

各相談支援
機関

○『理解する』手助け

- ・注意する前に、どうしたのかな？何を思っているのかな？と考えてみよう
- ・本人の苦手なことは、一緒になって取り組んでみよう

○『ともに笑顔で暮らせる』手助け

- ・お互いにストレスをためないようにしよう
- ・相談できる相手を見つけよう (友達・相談員など)
- ・問題を抱えこむ前に、相談機関に相談しよう

これからにつながる支援・これからもつながる支援

京丹後市では、子どもの成長に合わせた支援、保護者の思いに寄り添った支援が途切れることなく続いていくよう、さまざまな機関と連携し、これからの生活を応援します。

乳幼児期



保育所
認定こども園

保健所・児童相談所

丹後地域教育支援センター

医療機関

子育て支援課・こども未来課・障害者福祉課

京都府立舞鶴こども療育センター（京都府発達障害者支援拠点）

児童発達相談支援事業所（さつき園）

保育所から小学校までのお子さんを対象に、発達状況に合わせた療育に取り組みます。家族も共に取り組む過程で、お子さんの理解につながり、特性に応じた関わり方や環境づくりにも役立ちます。

小学校 中学校



京丹後市教育支援センター麦わら

不登校で悩む児童生徒と保護者を対象に、学校復帰・社会的自立を目指します。

与謝の海支援学校

小学校通級指導教室・支援学級

京都府総合教育センター北部教育相談室

中学校通級指導教室・支援学級

教育委員会(教育支援委員会・学校教育課)

高等学校

京都府教育委員会

北京都若者サポートステーション



寄り添い支援総合サポートセンター（自立支援・就労支援）

就労・生活困窮・引きこもりなどの日々の悩みに対し、相談から支援までをワンストップで行い、問題解決を支援します。

就労・進学



職場・ハローワーク

大学・専門学校

障害者就業・生活支援センター（こまち）

就職希望や在職中の障害のある方へ、ご本人の課題に応じて、雇用および福祉の関係機関と連携を図りながら、就業面や生活面の一体的な支援を行います。

相談支援事業所（もみの木・結）

障害のある方が自立した日常生活・社会生活が送れるよう、適切な情報提供やサービスの利用調整などを行います。

相談は、どのタイミングからでも可能です

困難さを感じる時期は人それぞれです。どのタイミングでも、相談は可能です。

どこに相談したらいいのかわからないときは、子育て支援課（０７７２－６９－０３７０）まで、ご連絡ください。

子育て支援課（母子保健 育児相談）

０７７２－６９－０３７０

こども未来課（保育所・認定こども園 児童福祉）

０７７２－６９－０３４０

障害者福祉課（児童福祉 障害福祉）

０７７２－６９－０３２０

寄り添い支援総合サポートセンター（自立支援・就労支援）

０１２０－１２５－２９４

丹後保健所（発達相談 育児相談）

０７７２－６２－０３６１

福知山児童相談所（養護相談）

０７７３－２２－３６２３

児童発達相談支援事業所さつき園

０７７２－６２－８０２３

障害者地域生活支援センターもみの木

０７７２－６９－５０５９

障害者生活支援センター結

０７７２－６９－１０４０

障害者就業・生活支援センターこまち（就労相談）

０７７２－６８－０００５

ひととわ（ひきこもり相談窓口）

０８０－２５０７－９０１０